

北海道観光入込客数調査報告書

平成20年度

観光入込客数（実人数）..... 1頁

（参考）

観光入込客数（地域の状況・延べ人数）..... 3頁

交通機関別来道観光客数（実人数）..... 6頁

訪日外国人来道者数

1 訪日外国人来道者数（実人数）..... 7頁

2 訪日外国人来道宿泊者数（地域の状況・延べ人数） 9頁

平成21年7月

北海道経済部観光局

北海道観光入込客数調査の内容と留意事項

1 観光客入込客数調査について

本調査は、全国観光統計基準により道が定めた「北海道観光入込客数調査要領」に基づき、各市町村が行った観光入込客数調査や交通機関における輸送実績から推計したもので、半期毎に実施しています。

2 調査内容

(1) 観光入込客数

ア 観光入込客数【実人数】

各市町村の観光入込客数や輸送実績の調査などにより推計した北海道における観光入込客の実人数

実人数：1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合でも、1人と数えます。

イ 観光入込客数【延べ人数】

各市町村の観光入込客数を集計した観光入込客数の延べ人数

延べ人数：市町村の観光入込客数の単純合計

1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合は、5人と数えます。

(2) 来道観光客数

交通機関（航空機、フェリー、鉄道）の下り便の輸送実績を基に「来道観光客動態調査」などにより推計した来道観光客の実人数

(3) 訪日外国人来道者数

北海道を訪れた外国人について、宿泊施設の調査などにより推計した訪日外国人来道者数の実人数

3 利用上の留意事項

(1) 今回の調査は、平成20年度（平成20年4月～21年3月）を対象に行っており、4・5月を「春」、6～9月を「夏」、10・11月を「秋」、12～3月を「冬」として取り扱っています。

(2) 市町村毎の観光入込客数調査では、実人数を推計していますが、「支庁の計」、「圏域の計」は該当市町村の単純合計のため延べ人数となります。

(3) 各数字は、四捨五入のため合計が合致しない場合があります。

観光入込客数（実人数）

1 総数

平成20年度の観光入込客数の総数（実人数）は、4,707万人となり、前年度の4,958万人に対し、94.9%（251万人減）となりました。

花畑牧場の「生キャラメル」人気による中札内村での観光客の増加や札幌の秋のイベントとして開催された「さっぽろオータムフェスト2008」（9月19日～10月5日）に多くの人が訪れるなど明るい話題もありましたが、ガソリン価格の高騰によるドライブ観光の出控えにより道内客が減少したほか、世界的な景気後退に伴う旅行の出控えや急激な円高による訪日外国人来道者の減少、航空路線の減便・機材の縮小や北海道洞爺湖サミット開催に伴う警備に対する敬遠、さらには、2月の天候不順により航空機の欠航が増加するとともに、さっぽろ雪まつりをはじめとするこの時期のイベントへの入込が減少するなど、観光入込客数は3年ぶりに減少しました。

2 道外・道内客別

道外・道内客別にみると、道外客は628万人で前年度の96.8%、道内客は4,079万人で同94.7%となりました。

構成比は、道外客が13.3%、道内客が86.7%となっています。

3 日帰り・宿泊客別

日帰り・宿泊客別にみると、日帰り客は3,300万人で前年度の93.4%となりました。宿泊客は、道外客が96.8%と減少しましたが、道内客は100.5%と微増となり、全体では1,407万人で98.8%となりました。

構成比でみると、日帰り客が70.1%、宿泊客が29.9%となっています。

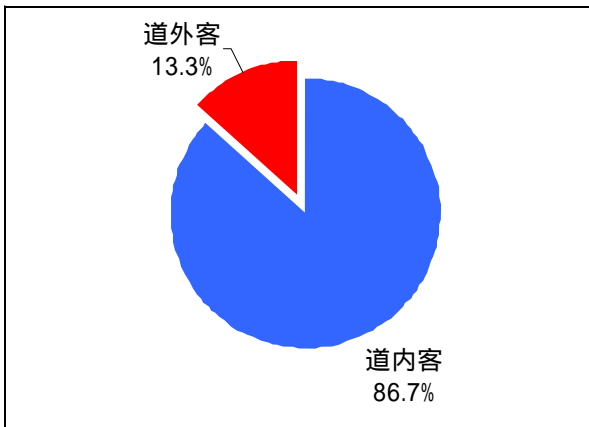
4 季節別

季節別にみると、道内、道外を合わせた全体では全ての季節で減少しており、春季が前年度の97.9%、夏季が同94.9%、秋季が同94.7%、冬季が同93.1%となっています。

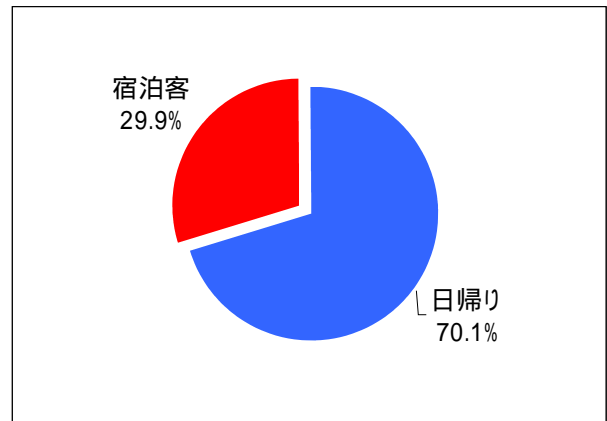
<平成20年度 観光入込客数（実人数）>

区 分	観光入込	左の内訳		季節別内訳			
		日帰り客	宿泊客	春	夏	秋	冬
道 外 客	628万人	2万人	626万人	83万人	346万人	75万人	125万人
構成比	13.3%	0.3%	99.7%	13.2%	55.1%	11.9%	19.9%
前年度比	96.8%	100.0%	96.8%	101.2%	97.5%	97.4%	93.3%
うち外国人	69万人	0万人	69万人	9万人	29万人	8万人	23万人
構成比	1.4%	0%	100.0%	13.0%	42.0%	11.6%	33.3%
前年度比	96.9%	-	96.9%	103.9%	113.2%	93.5%	81.2%
道 内 客	4,079万人	3,297万人	781万人	646万人	2,024万人	567万人	842万人
構成比	86.7%	80.8%	19.1%	15.8%	49.6%	13.9%	20.6%
前年度比	94.7%	93.3%	100.5%	97.4%	94.5%	94.3%	93.1%
合 計	4,707万人	3,300万人	1,407万人	729万人	2,370万人	642万人	966万人
構成比	100.0%	70.1%	29.9%	15.5%	50.4%	13.6%	20.5%
前年度比	94.9%	93.4%	98.8%	97.9%	94.9%	94.7%	93.1%

【道内・道外客別構成比】



【日帰り・宿泊客別構成比】



【観光入込客数（実人数）の推移】

（上段：人数、下段：前年度比）

	平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度	
	人数	前年度比	人数	前年度比	人数	前年度比	人数	前年度比	人数	前年度比
道外客	632万人	430万人	635万人	430万人	659万人	443万人	649万人	438万人	628万人	429万人
	99.5%	98.6%	100.5%	100.0%	103.8%	103.0%	98.5%	98.9%	96.8%	97.9%
	うち外国人	42万人	21万人	51万人	26万人	59万人	29万人	71万人	34万人	69万人
	145.4%	143.5%	120.3%	124.9%	115.0%	111.5.5%	120.4%	115.7%	96.9%	110.8%
道内客	4,207万人	2,779万人	4,178万人	2,741万人	4,250万人	2,804万人	4,309万人	2,804万人	4,079万人	2,670万人
	97.7%	97.0%	99.3%	98.6%	101.7%	102.3%	101.4%	100.0%	94.7%	95.2%
日帰り客	3,348万人	2,452万人	3,336万人	2,433万人	3,395万人	2,554万人	3,534万人	2,507万人	3,300万人	2,378万人
	97.3%	96.8%	99.6%	99.2%	101.8%	105.0%	104.1%	98.2%	93.4%	94.9%
宿泊客	1,491万人	757万人	1,477万人	738万人	1,514万人	722万人	1,424万人	735万人	1,407万人	720万人
	99.6%	98.7%	99.1%	97.5%	102.5%	97.8%	94.1%	101.8%	98.8%	98.0%
計	4,839万人	3,209万人	4,813万人	3,171万人	4,909万人	3,249万人	4,958万人	3,242万人	4,707万人	3,099万人
	98.0%	97.2%	99.5%	98.8%	102.0%	102.5%	101.0%	99.8%	94.9%	95.6%

【参考】 観光入込客数（地域の状況・延べ人数）

1 総数

平成20年度の観光入込客数の総数は、延べ1億3,282万人となり、前年度の1億3,985万人に対し95.0%（703万人減）となりました。

2 圏域別

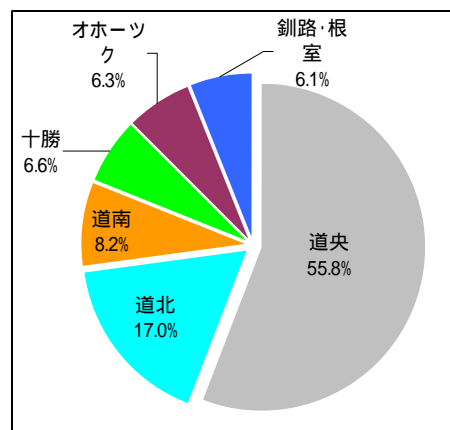
圏域別で見ると、前年度に比べ、道央圏95.8%、道北圏94.8%、道南圏92.1%、十勝圏97.2%、オホーツク圏91.0%、釧路・根室圏93.8%と全ての圏域で減少しました。

なお、各圏域の特徴は次のとおりです。

【道 央】	道の駅みなとま～れ寿都のオープン、地元食材の開発（白老町）などにより一部増加した市町村もみられたものの、ガソリン価格の高騰によるドライブ観光の出控えによりアウトレットモール・レラ（千歳市）の買物客が大きく減少するなど、道内客が大幅に減少しました。さらに、道外からの航空路線の減便や機材の縮小、北海道洞爺湖サミット開催に伴う警備に対する敬遠などの影響により道外客も減少。さらに、9月以降は景気後退の影響を受け減少しました。
【道 北】	道の駅もち米の里 なよろのオープン、道立公園サンピラーパークの開園（名寄市）や道東道トマム～十勝清水間の開通（占冠村）による増加がみられたものの、旭山動物園（旭川市）の入園者数が減少したことにより周辺市町村でも減少したほか、ガソリン価格高騰や景気後退の影響を受け減少しました。
【道 南】	桜の開花がゴールデンウィーク期間中の早い時期に終了したことや高速フェリーや函館～関西線の休止、ガソリン価格高騰の影響や景気後退の影響を受け大幅に減少しました。
【十 勝】	「世界ラリー選手権」が道央圏へ移転したことや景気後退などの減少要因はありましたが、中札内村の花畑牧場の「生キャラメル」人気の高まりや山菜の販売など独自の取組みを行っている道の駅「なかさつない」での観光客の増加や機関車を実際に運転できる「ふるさと銀河線りくべつ鉄道」が4月にオープンし、鉄道ファンが多く訪れたことなどの増加要因により、比較的小さな減少に止まりました。
【オホーツク】	ゴールデンウィーク時期の芝桜（大空町、滝上町）やチューリップ（上湧別町）が順調に開花するなど増加要因もありましたが、知床の世界自然遺産効果が薄れてきたことや流氷の接岸期間やサロマ湖の結氷期間が短かったこと、また、ガソリン価格高騰や景気後退の影響を受け大幅に減少しました。なお、一部市町村においては中国映画のヒットにより中国人観光客の増加がみられました。
【釧路・根室】	中国映画のヒットによる中国人観光客の増加や釧路市では2月に野生のラッコ「クーちゃん」が市内中心部に現れ、全国的に注目されるなど明るい話題もありましたが、道外からの団体観光客の減少傾向が続いていることや、ガソリン価格高騰や景気後退の影響を受け大幅に減少しました。

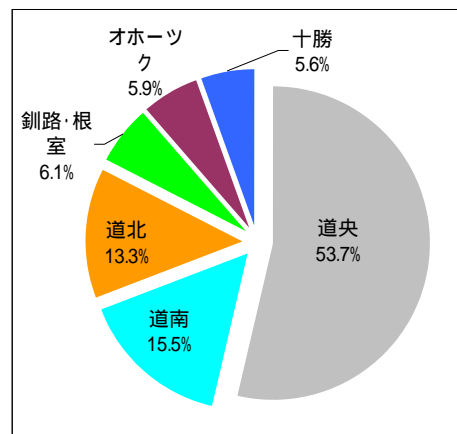
< 観光入込客数（延べ人数）圏域別構成比 >

圏 域	観光入込客数	前年度比	増減数	構成比
道 央	7,413万人	95.8%	324万人	55.8%
道 北	2,254万人	94.8%	124万人	17.0%
道 南	1,085万人	92.1%	93万人	8.2%
十 勝	874万人	97.2%	25万人	6.6%
オホーツク	841万人	91.0%	83万人	6.3%
釧路・根室	814万人	93.8%	54万人	6.1%
合 計	13,282万人	95.0%	703万人	100.0%



< 宿泊客延べ数 圏域別構成比 >

圏域	宿泊客延べ数	前年度比	増減数	構成比
道央	1,729万人泊	102.0%	34万人泊	53.7%
道南	498万人泊	102.0%	10万人泊	15.5%
道北	430万人泊	90.6%	45万人泊	13.3%
釧路・根室	195万人泊	91.2%	19万人泊	6.1%
オホーツク	190万人泊	87.9%	26万人泊	5.9%
十勝	180万人泊	94.3%	11万人泊	5.6%
合計	3,222万人泊	98.3%	57万人泊	100.0%



3 市町村別

市町村別で見ると、札幌市が1,296万人（前年度比94.0%）で最も多く、次いで、小樽市714万人（同96.5%）、旭川市673万人（同91.8%）以下、千歳市、函館市、釧路市、洞爺湖町の順となっています。

一方、宿泊客延べ数で見ると、札幌市が974万人泊（前年度比105.4%）で最も多く、次いで、函館市439万人泊（同104.2%）、釧路市127万人泊（同92.7%）以下、登別市、上川町、帯広市、倶知安町の順となっています。

< 観光入込客数の多い市町村 >

順位	市町村名	入込客数	前年度比
1	札幌市	1,296万人	94.0%
2	小樽市	714万人	96.5%
3	旭川市	673万人	91.8%
4	千歳市	480万人	85.8%
5	函館市	456万人	94.7%
6	釧路市	353万人	93.8%
7	洞爺湖町	314万人	93.0%
8	登別市	306万人	92.8%
9	喜茂別町	300万人	100.0%
10	上川町	231万人	92.6%
11	帯広市	216万人	91.7%
12	白老町	208万人	107.6%
13	伊達市	207万人	110.3%
14	石狩市	200万人	129.0%
15	砂川市	195万人	99.6%
16	富良野市	188万人	91.0%
17	七飯町	183万人	87.9%
18	壮瞥町	177万人	93.9%
19	倶知安町	151万人	99.5%
20	二セコ町	145万人	97.5%

< 宿泊客延べ数の多い市町村 >

順位	市町村名	宿泊客延べ数	前年度比
1	札幌市	974万人泊	105.4%
2	函館市	439万人泊	104.2%
3	釧路市	127万人泊	92.7%
4	登別市	121万人泊	92.8%
5	上川町	85万人泊	94.1%
6	帯広市	76万人泊	91.1%
7	倶知安町	71万人泊	99.9%
8	小樽市	70万人泊	95.6%
9	旭川市	69万人泊	92.5%
10	洞爺湖町	69万人泊	92.3%
11	北見市	66万人泊	95.6%
12	富良野市	65万人泊	106.4%
13	二セコ町	54万人泊	102.4%
14	網走市	50万人泊	80.0%
15	音更町	50万人泊	95.3%
16	斜里町	48万人泊	91.0%
17	稚内市	40万人泊	97.1%
18	伊達市	39万人泊	107.2%
19	留寿都村	38万人泊	94.8%
20	弟子屈町	38万人泊	99.3%

【参考】 交通機関別来道観光客数（実人数）

1 概況

平成20年度の交通機関（航空機・フェリー・鉄道）の下り便の輸送実績を基に推計した来道観光客数は628万人で、前年度の649万人に対して96.8%となっています。

季節別で見ると、春季は前年度比101.2%とやや増加したものの、夏季は同97.5%、秋季は同97.4%、冬季は同93.3%と減少しました。

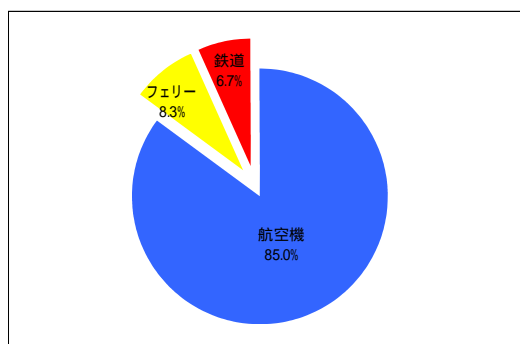
2 交通機関別の状況

【航空機】	春季は、スカイマークの旭川～羽田間の開設や特別割引の効果によりやや増加したものの、夏以降は機材の小型化や特に秋以降は景気の後退により減少しました。冬季は天候不順による欠航も増加し、さらに減少しました。
【フェリー】	青函高速フェリーのナッチャン・レラの運航に加え5月からはナッチャンワールドも運航され春季、夏季ともに増加しましたが、燃油高騰の影響により11月から廃止となったことから、冬季においては大幅に減少しました。
【鉄道】	青函高速フェリーの影響や北斗星の運行本数の減少を受け、春季、夏季は減少しましたが、秋以降は同フェリーの廃止により前年並みとなりました。

<平成20年度来道観光客数（交通機関別・季節別）>

区分	合計	構成比	春(4・5月)	夏(6～9月)	秋(10・11月)	冬(12～3月)
合計	来道観光客数	628万人	83万人	346万人	75万人	125万人
	構成比	100.0%	13.2%	55.1%	11.9%	19.9%
	前年度比	96.8%	101.2%	97.5%	97.4%	93.3%
航空機	来道観光客数	534万人	68万人	293万人	64万人	110万人
	構成比	100.0%	12.7%	54.9%	12.0%	20.6%
	前年度比	96.6%	101.5%	97.0%	97.0%	93.2%
フェリー	来道観光客数	52万人	8万人	33万人	5万人	6万人
	構成比	100.0%	15.4%	63.5%	9.6%	11.5%
	前年度対比	98.1%	100.0%	103.1%	100.0%	85.7%
鉄道	来道観光客数	42万人	6万人	20万人	6万人	9万人
	構成比	100.0%	14.3%	47.6%	14.3%	21.4%
	前年度比	97.7%	85.7%	95.2%	100.0%	100.0%

【交通機関別構成比】



【参考】 訪日外国人来道者数

1 訪日外国人来道者数（実人数）

(1) 概況

平成20年度の訪日外国人来道者数は、実人数で68万9,150人となり、前年度の71万950人に対し96.9%と減少しました。

年度前半は、ビジット・ジャパン・キャンペーン事業によるPR効果や民間事業者、関係団体など一体となった海外プロモーション活動の推進や円安基調により増加しましたが、年度後半は新たな定期路線の就航により一部の国・地域からの来道者が増加したものの、全体的には世界的な同時不況や急激な円高の影響により減少に転じ、現行の調査要領で調査を行った平成9年度以降では初めての減少となりました。

(2) 国・地域別

本道観光の主要市場であるアジア地域からの来道者は、60万8,300人で前年度63万2,800人に対し96.1%と減少しました。

その中であって、中国からの来道者は前年度比175.9%、人数は少ないもののマレーシア同226.4%、タイも同176.7%と大幅に増加しました。一方、世界同時不況や円高の影響を受けた台湾や韓国、オーストラリアはそれぞれ同82.0%、82.2%、88.3%と減少しています。

国・地域別で見ると、台湾が22万7,600人と最も多く、次いで、韓国が13万9,100人、香港が12万6,000人、中国が4万7,400人の順となっています。

【台湾】	これまでの長期に渡る増加トレンドが落ち着きを見せ、全体として小康状態であったところに、世界的な景気後退や円高台湾ドル安の影響が加わり、年度後半は大幅に減少しました。
【韓国】	年度前半は前年同期比微増も、年度後半からの急激な景気後退による消費手控えに加え、通貨ウォン安も逆風となり、海外旅行全般が減少に転じたことから、通年ベースでは減少しました。
【香港】	レンタカーを利用した旅行が好調であるなど、定期チャーター便が就航したことから夏から秋にかけての訪問者が大幅増。北海道の知名度が定着した上、景気後退などの影響による極端な落ち込みもなく、年間を通じて堅調に推移しました
【中国】	好調な国内経済を背景に海外旅行需要が基本的に拡大傾向にある上、平成20年3月に訪日ビザが家族観光を対象に発給できるよう緩和されたこともプラスに働き、さらに、北海道がロケ地となった中国映画の大ヒットが1～3月の追い風要因となり、大幅な増加が続いています。
【シンガポール】	北海道の知名度が定着し、団体旅行のみならず個人旅行など旅行需要の裾野が広がってきていることから、ラベンダーなどの花の景色や英語環境の整った冬のニセコなど、多様な地域や旅行消費に需要があり、世界的な景気後退局面にもかかわらず、四季を通じて安定的に増加しました。
【オーストラリア】	これまでのスキー中心の需要から、春・夏の入込みも徐々に拡大しつつあったが、景気後退、さらに高値で推移してきた豪ドルの下落により、年度後半、特に人気のある冬季に落ち込んだことから通年でも減少に転じました。

<平成20年度訪日外国人来道者数(実人数)>

(単位:人)

区分		アジア								小計
		中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	マレーシア	タイ	その他	
春季 (4・5月)	20年度	4,850	19,700	39,100	11,350	5,950	1,550	400	1,200	84,100
	19年度	2,950	22,250	39,500	12,100	4,550	750	150	900	83,150
	前年度比	164.4%	88.5%	99.0%	93.8%	130.8%	206.7%	266.7%	133.3%	101.1%
夏季 (6～9月)	20年度	14,100	76,500	93,900	57,600	13,600	1,800	1,100	3,550	262,150
	19年度	7,700	72,100	102,800	41,050	10,450	800	400	2,850	238,150
	前年度比	183.1%	106.1%	91.3%	140.3%	130.1%	225.0%	275.0%	124.6%	110.1%
秋季 (10・11月)	20年度	7,600	14,000	30,150	13,800	6,700	3,000	450	1,150	76,850
	19年度	3,600	23,550	36,700	10,450	5,800	850	250	1,000	82,200
	前年度比	211.1%	59.4%	82.2%	132.1%	115.5%	352.9%	180.0%	115.0%	93.5%
冬季 (12～3月)	20年度	20,850	28,900	64,450	43,250	19,050	3,950	1,850	2,900	185,200
	19年度	12,700	51,400	98,400	44,400	16,350	2,150	1,350	2,550	229,300
	前年度比	164.2%	56.2%	65.5%	97.4%	116.5%	183.7%	137.0%	113.7%	80.8%
合計	20年度	47,400	139,100	227,600	126,000	45,300	10,300	3,800	8,800	608,300
	19年度	26,950	169,300	277,400	108,000	37,150	4,550	2,150	7,300	632,800
	前年度比	175.9%	82.2%	82.0%	116.7%	121.9%	226.4%	176.7%	120.5%	96.1%

		ヨーロッパ		北米		中南米	アフリカ	オセアニア		不明	計
		ロシア	その他	アメリカ	カナダ			オーストラリア	その他		
春	20	900	1,600	1,750	200	100	0	500	50	1,800	91,000
	19	1,100	600	1,200	100	50	0	400	50	950	87,600
	比	81.8%	266.7%	145.8%	200.0%	200.0%	0%	125.0%	100.0%	189.5%	103.9%
夏	20	3,500	5,100	6,650	1,100	500	350	1,250	350	5,400	286,350
	19	2,450	3,200	3,800	450	200	300	850	300	3,150	252,850
	比	142.9%	159.4%	175.0%	244.4%	250.0%	116.7%	147.1%	116.7%	171.4%	113.2%
秋	20	1,050	1,250	2,150	250	50	50	700	100	900	83,350
	19	850	1,400	2,000	150	100	50	650	150	1,550	89,100
	比	123.5%	89.3%	107.5%	166.7%	50.0%	100.0%	107.7%	66.7%	58.1%	93.5%
冬	20	1,450	4,550	3,800	550	200	100	27,000	850	4,750	228,450
	19	1,650	3,200	3,850	650	100	50	31,450	650	10,500	281,400
	比	87.9%	142.2%	98.7%	84.6%	200.0%	200.0%	85.9%	130.8%	45.2%	81.2%
計	20	6,900	12,500	14,350	2,100	850	500	29,450	1,350	12,850	689,150
	19	6,050	8,400	10,850	1,350	450	400	33,350	1,150	16,150	710,950
	比	114.0%	148.8%	132.3%	155.6%	188.9%	125.0%	88.3%	117.4%	79.6%	96.9%

【外国人来道者数(実人数)の推移】

(上段:人数(人) 下段:前年度比(%))

国名等	平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		
	うち上期	うち下期	うち上期	うち下期	うち上期	うち下期	うち上期	うち下期	うち上期	うち下期	
アジア	台湾	208,600	100,200	276,800	149,950	267,900	150,250	277,400	142,300	227,600	133,000
		174.2	222.4	132.7	149.7	96.8	100.2	103.5	94.7	82.0	93.5
	韓国	63,850	42,750	70,050	44,400	133,850	69,750	169,300	94,350	139,100	96,200
		104.3	92.3	109.7	103.9	191.1	157.1	126.5	135.3	82.2	102.0
	香港	82,750	39,400	86,500	37,600	86,050	38,750	108,000	53,150	126,000	68,950
		146.1	152.1	104.5	95.4	99.5	103.1	125.5	137.2	116.7	129.7
	中国	12,050	4,950	15,650	7,050	17,350	7,100	26,950	10,650	47,400	18,950
		207.8	202.0	129.9	142.4	110.9	100.7	155.3	150.0	175.9	177.9
シンガポール	6,000	1,900	11,800	5,900	18,950	7,400	37,150	15,000	45,300	19,550	
	150.0	140.7	196.7	310.5	160.6	125.4	196.0	202.7	121.9	130.3	
マレーシア	-	-	-	-	-	-	4,550	1,550	10,300	3,350	
	-	-	-	-	-	-	-	-	226.4	216.1	
タイ	-	-	-	-	-	-	2,150	550	3,800	1,500	
	-	-	-	-	-	-	-	-	176.7	272.7	
その他	5,250	1,950	5,650	2,400	10,350	4,000	7,300	3,750	8,800	4,750	
	125.0	95.1	107.6	123.1	183.2	166.7	70.5	93.8	120.5	126.7	
米国	9,100	4,300	8,750	4,550	9,700	5,300	10,850	5,000	14,350	8,400	
	115.9	91.5	96.2	105.8	110.9	116.5	111.9	94.3	132.3	168.0	
ロシア	6,700	4,200	5,900	3,700	5,850	3,400	6,050	3,550	6,900	4,400	
	96.4	91.3	88.1	88.1	99.2	91.9	103.4	104.4	114.0	123.9	
オーストラリア	14,650	600	18,900	650	22,950	900	33,350	1,250	29,450	1,750	
	194.0	100.0	129.0	108.3	121.4	138.5	145.3	138.9	88.3	140.0	
その他(不明含む)	18,100	11,050	13,650	7,700	17,700	7,300	27,900	9,350	30,150	16,550	
	91.0	77.5	75.4	69.7	129.7	94.8	157.6	128.1	108.1	177.0	
合計	427,050	211,300	513,650	263,900	590,650	294,150	710,950	340,450	689,150	377,350	
	145.4	143.5	120.3	124.9	115.0	111.5	120.4	115.7	96.9	110.8	

2 訪日外国人来道宿泊者数（地域の状況・延べ人数）

(1) 国・地域別

平成20年度の訪日外国人来道宿泊者数（延べ人数）は、208万8,309人泊で、前年度比98.9%と減少しました。

(2) 圏域別

圏域別で見ると、前年度比ではオホーツク圏で増加し、道央圏や道北圏、釧路・根室圏ではほぼ前年並みとなっています。台湾からの来道者が大きく減少した道南圏や世界ラリー選手権が道央圏に移転した十勝圏では大幅な減少となりました。

< 圏域別訪日外国人来道宿泊延べ数 >

（単位：人泊、%）

圏域	ア ジ ア							
	中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	マレーシア	タイ	その他
道南	4,650	12,930	23,451	6,240	5,299	1,227	751	856
道央	101,794	224,477	462,711	326,062	110,443	27,260	10,649	26,588
道北	7,126	14,225	109,759	60,577	25,347	2,127	1,359	2,612
オホーツク	3,563	9,178	16,385	11,510	4,148	1,715	690	315
十勝	1,846	3,763	66,968	13,874	12,829	3,211	56	475
釧路・根室	4,349	10,433	32,554	10,861	6,425	1,101	366	1,079
合計	123,328	275,006	711,828	429,124	164,491	36,641	13,871	31,925

圏域	ヨ ー ロ ッ パ					北 米	
	ロシア	イギリス	フランス	ドイツ	その他	米国	カナダ
道南	492	350	136	131	1,100	3,721	318
道央	12,847	10,544	4,507	5,120	15,648	41,014	6,386
道北	1,449	1,030	759	721	1,715	3,337	415
オホーツク	653	145	170	155	546	1,708	98
十勝	33	87	275	74	158	532	106
釧路・根室	2,602	643	359	171	879	1,623	443
合計	18,076	12,799	6,206	6,372	20,046	51,935	7,766

圏域	中南米	アフリカ	オセアニア		不明	合計	19年度	前年比
			オーストラリア	その他				
道南	100	2	984	130	5,947	68,815	81,761	84.2
道央	2,135	1,294	103,352	3,854	36,799	1,533,484	1,549,636	99.0
道北	786	232	13,257	695	2,420	249,948	246,116	101.6
オホーツク	4	46	645	317	265	52,256	46,086	113.4
十勝	32	4	2,999	8	640	107,970	114,992	93.9
釧路・根室	85	149	681	63	970	75,836	73,971	102.5
合計	3,142	1,727	121,918	5,067	47,041	2,088,309	2,112,562	98.9

(3) 市町村別

市町村別で見ると、有名温泉地を抱える市町村が上位を占める傾向にあり、札幌市が76万6,854人泊（前年度比102.0%）で最も多く、次いで登別市が21万228人泊（同106.3%）、倶知安町13万9,083人泊（同96.9%）、上川町10万7,267人泊（同102.5%）、洞爺湖町9万8,425人泊（同88.2%）となっています。

【宿泊延べ数の多い上位5カ国・地域】

順位	国名	宿泊延べ数	前年度比
1	台湾	711,828人泊	80.8%
2	香港	429,124人泊	116.1%
3	韓国	275,006人泊	91.2%
4	シンガポール	164,491人泊	117.6%
5	中国	123,328人泊	169.8%

【宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	766,854人泊	102.0%
2	登別市	210,228人泊	106.3%
3	倶知安町	139,083人泊	96.9%
4	上川町	107,267人泊	102.5%
5	洞爺湖町	98,425人泊	88.2%

【中国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	56,870人泊	199.6%
2	洞爺湖町	10,684人泊	209.2%
3	登別市	8,471人泊	166.4%
4	壮瞥町	7,269人泊	108.2%
5	千歳市	5,868人泊	148.0%

【韓国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	104,881人泊	96.3%
2	登別市	47,910人泊	86.1%
3	壮瞥町	16,799人泊	55.3%
4	留寿都村	16,061人泊	133.2%
5	洞爺湖町	9,264人泊	50.8%

【台湾の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	232,157人泊	76.2%
2	登別市	95,231人泊	101.2%
3	上川町	71,933人泊	89.9%
4	洞爺湖町	46,148人泊	76.5%
5	音更町	42,086人泊	93.8%

【香港の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	205,809人泊	116.3%
2	登別市	29,434人泊	137.0%
3	倶知安町	18,290人泊	142.2%
4	小樽市	17,669人泊	113.7%
5	富良野市	17,328人泊	240.6%

【シンガポールの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	51,323人泊	109.2%
2	登別市	16,469人泊	170.9%
3	上川町	15,770人泊	115.5%
4	新得町	10,836人泊	173.9%
5	洞爺湖町	10,556人泊	133.1%

【ロシアの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	7,736人泊	209.5%
2	小樽市	1,945人泊	79.3%
3	根室市	1,790人泊	111.8%
4	稚内市	1,078人泊	93.7%
5	倶知安町	938人泊	298.7%

【アメリカの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	19,952人泊	104.9%
2	登別市	5,393人泊	155.2%
3	千歳市	4,221人泊	168.0%
4	函館市	3,509人泊	130.1%
5	二セコ町	3,127人泊	319.1%

【オーストラリアの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	倶知安町	83,665人泊	93.5%
2	富良野市	11,213人泊	75.6%
3	札幌市	7,775人泊	116.3%
4	留寿都村	6,308人泊	76.7%
5	二セコ町	3,494人泊	53.1%

北海道観光入込客数調査報告書 [平成20年度]

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/301-irikomi/irikomitop.htm>

平成21年7月

北海道経済部観光局

札幌市中央区北3条西6丁目

電話番号 011-231-4111 内線 26-568

ダイヤルイン 011-204-5304

F A X 011-232-4120 (局直通)
